

この時期の防除は作物の生育状況に合わせて行う必要があります。本年もここまでは気温が高く推移し、また、3月19日に発表された福岡管区気象台の3か月予報でも、4～6月の気温が平年より高い見込みとされています。このことから、果樹の生育や病害虫の発生が早まると予想されますので、園内の状況をこまめに観察し、適期防除を逃さないようにしましょう。

## 果樹全般

### ●果樹カメムシ類

農業技術防除センターが行ったチャバネアオカメムシの越冬調査の結果、本年の越冬地点率は平年より高く、1地点あたりの越冬虫数も平年より多い状況でした。これらは過去10年間で最も高く（多く）、本年8月上旬頃までの本虫の発生量は「平年より多い」と予想されます。

また、今後、気温が平年より高く推移する見込みであることから、カメムシの果樹園への早期飛来が懸念されます。特に、ウメやモモでの被害が懸念されますので圃場をよく観察し、飛来が確認できれば早急に防除を行ってください。

## ハウスミカン

### ●ミカンハダニ対策

収穫2か月前を目安にダニオーテフロアブル2,000倍等を散布しましょう。完着期以降の園では、ダニエモンフロアブル4,000倍やダニゲッターフロアブル2,000倍、粘着くん水和剤500倍を散布します。いずれも散布ムラがないよう丁寧に散布しましょう。

なお、ハダニ類の殺ダニ剤に対する感受性は園地で異なることから、過去に使用した際の防除効果の有無を参考にして薬剤を選択してください

### ●アザミウマ類対策

アザミウマ類の侵入を防ぐため、開放部にアルミ蒸着シートや光反射シートを織り込んだネットを設置しましょう。加えて、ハウス周囲にタイベックシートを敷くと効果的です。

また、アザミウマの種類によって効果的な薬剤が異なりますので（表1参照）、粘着トラップ等により種類の確認を行いましょう。種類の確認方法が分からない場合は、農業振興セ

ンター等に問い合わせてください。

表1 ハウスミカンのアザミウマ類防除薬剤

アザミウマの種類	薬剤名	IRAC※ コード	希釈倍率	収穫前日数
ミカンキイロアザミウマ及び ネギアザミウマ	ファインセーブフロアブル	34	2,000倍	7日前まで
	ディアナ WDG	5	10,000倍	前日まで
	スピノエースフロアブル	5	4,000倍	7日前まで
ミカンキイロアザミウマ	ウララ 50DF	29	5,000倍	7日前まで
	コテツフロアブル	13	2,000倍	前日まで
ネギアザミウマ	ハチハチフロアブル	21A	2,000倍	前日まで

※殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード

**露地カンキツ**

●開花期前後の病害虫防除

満開期～落弁期は、灰色かび病、そうか病、黒点病の防除時期です。表2を参考に防除を行ってください。灰色かび病が問題となる園や着花が多い園では、満開期にも灰色かび病の防除を行いましょう。こまめに樹を揺するなどして花卉を落とし、本病の被害リスクを減らすことも有効です。

また、ハダニの発生が認められる園では、マシン油乳剤 200 倍を混用してください。なお、近年、樹勢の低下により冬～春の銅剤やマシン油乳剤の使用のタイミングが難しい園がありますので、葉面散布剤を加用して樹勢の維持・回復に努めてください。

散布時期	対象病害	薬剤名	FRAC コード	備考
満開期	そうか病 灰色かび病	フロンサイド SC	29	
		ストロビードライフロアブル	11	
		ナリア WDG	11+7	
		ファンタジスタ顆粒水和剤	11	
		フルーツセイバー	7	
		ナティーボフロアブル	3+11	
落弁期	そうか病 灰色かび病 黒点病	ストロビードライフロアブル	11	黒点病防除として加用する剤 ジマンダイセン水和剤 + ペンコゼブ水和剤 エムダイファー水和剤
		ナリア WDG	11+7	
		ファンタジスタ顆粒水和剤	11	
		フルーツセイバー	7	
	ナティーボフロアブル	3+11		
	そうか病 灰色かび病	パレード 15 フロアブル	7	

※殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）が定めた作用機構に基づく分類コード

## ナシ

### ●黒星病対策

摘果期以降はキノンドーフロアブル、ベルコートフロアブル、デランフロアブル等の予防剤を主体に防除を行います。DMI 剤は、耐性菌の発生リスクがあることから5月上旬～6月中旬までの使用は控えましょう。ただし、本病の発生が認められた場合には、DMI 剤のスコア顆粒水和剤 4,000 倍やアンビルフロアブル 1,000 倍等を直ちに散布します。

なお、摘果前は薬剤の付着ムラが起きやすくなるとともに、雨滴が乾きにくくなります。そのため、摘果作業を早めに実施しておくことも病害を防ぐうえで重要なポイントとなります。

また、トンネル栽培では、ビニール除去の直前または直後には必ず本病の防除を行ってください。

### ●ナシヒメシンクイ対策

ナシヒメシンクイ対策として、交信攪乱フェロモン剤を設置します。資材はコンフューザーNとナシヒメコンの2種類ありますが、他の害虫（ハマキムシ類）の発生状況により、使用するフェロモン剤が異なりますので、発生種に応じた資材を選択してください。

フェロモン剤は3～4ヶ月ほど効果が持続します。ただし、フェロモン剤には殺虫効果はないため、園外で交尾した雌成虫が園内に侵入・産卵して被害が発生する可能性や、モモノゴマダラノメイガ等のようなフェロモン剤の効果がない害虫による被害が発生する場合があります。モニタートラップを設置・調査するなど効果の確認に加え、被害の発生が認められたら薬剤防除を行きましょう。

また、今月号では、ナシヒメシンクイの特集記事を掲載していますので、合わせて参考にしてください。

## ブドウ

### ●べと病対策

開花期前後からの防除を徹底します。本病が多発すると、早期落葉を引き起こし、糖度低下や着色不良、新梢の充実不良等につながります。発生に注意し、多発生する園では、落弁期～顆粒小豆大期に浸透移行性の高いリドミルゴールドMZ 1,000 倍やベトファイター顆

粒水和剤 3,000 倍等を散布します。これらの薬剤は、散布後に伸長した葉にも浸透移行するため、新梢伸長期の防除に効果的です。

#### 晩腐病対策

露地ブドウなどで、昨年本病が発生した園では特に防除を徹底します。落弁期～顆粒小豆大期に、アミスターフロアブル 1,000 倍等を散布します。散布ムラがないように丁寧に散布し、また、棚上からも散布をしてください。

また、雨滴とともに菌が袋内に侵入しないよう、梅雨が来る前に、早めに袋掛け作業を行い、袋の止め口はしっかりと締めましょう。

#### ●チャノキイロアザミウマ対策

アディオンフロアブル 1,000 倍、スカウトフロアブル 2,000 倍、ディアナWDG 5,000 倍、ダントツ水溶剤 4,000 倍等を散布します。特に、アディオンフロアブルは果粉の溶脱や果面の汚れが少ないため、果実が肥大してからも使用できます。

また、本虫は軟弱な葉で増殖しやすいため、副梢の摘芯を徹底するとともに、副梢に着生する 2 番花（果）房は見つけ次第剪除してください。

### カキ

#### ●炭そ病対策

5 月上旬にジマンダイセン水和剤 500 倍を散布し、その後は、累積降雨量 150～200mm を目安に追加散布を行います。樹の上部まで十分に散布してください。

本病は、病斑上に形成された分生子が雨滴により飛散して伝染します。新梢に発生した病斑は、重要な伝染源となるので、新梢に発生を確認した場合は早急に取り除いてください。

### キウイフルーツ

#### ●灰色かび病対策

幼果に付着した花卉に灰色かび病が発生すると、落果したり、果面に傷がついたりします。落弁期には、ロブラール水和剤 1,500 倍などの薬剤を丁寧に散布してください。

#### ●かいよう病対策

発生の有無にかかわらず、すべての園で必ず防除を行いましょう。6 月までは銅水和剤を主体として定期的な薬剤防除を行います。6 月まで銅水和剤を主体とした定期的な薬剤防除

(1回/月)を行います。コサイド 3000 2,000 倍 (クレフノン 200 倍加用)、アグレプト水和剤、カスミン液剤 400 倍等を散布します。ただし、品種によって使える薬剤が異なりますので、防除暦や関係機関の指導に従って薬剤を選択してください。

5月は葉の褐色斑点症状や新梢の枯死が生じやすくなります。園内を観察し、症状があれば早急に除去してください。管理作業による感染を防ぐため切除に使用した器具などはエタノール 70%や次亜塩素酸ナトリウム 0.02%などの消毒液での消毒を徹底してください。

#### ●クワシロカイガラムシ対策

5月は本虫の重要な防除時期です。アプロード水和剤 1,000 倍を散布ムラがないよう丁寧に散布してください。